

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。			
【生徒に育みたい力】	・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力	・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力	
	・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力	・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力	

2 中期的目標

1	生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	[以下、学校教育自己診断を自己診断と表記]
	(1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。 ア 文部科学省「DX ハイスクール」の指定を受けている強みを生かし、デジタル人材の育成を図り、文型・理型を問わず、AI 活用等、プレゼンテーション力の育成を促進する。 ・津田高版の探究活動（総合的な探究の時間）を充実し、上の項目とも連携しながら進めていく。 ※ 生徒が DX または探究活動等による校外プレゼンテーション発表会に参加する。（新規） ※ 卒業生徒数における大学理系学部進学率を令和9年度に12%以上にする。（R4：9.7%，R5：11.2%，R6：11.6%） イ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施しながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた取り組みを大切にしていく。高い学力伸長を求める生徒への対応、多様な状況にある生徒への対応等、個々の生徒に即した適切な対応の充実を、できる範囲の中で最大限取り組んでいく。 ・1人1台端末とプロジェクター等のICTを活用して最適化された学びを実践する。 ※ 自己診断（教職員）「主体的・対話的な授業やICT活用した授業実践」、令和9年度まで85%以上を維持。（R4：94%，R5：86%，R6：90%） ※ 自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」、令和9年度まで80%以上の肯定の維持。（R4：70%，R5：73%，R6：86%） ウ グローバル社会を生き抜く力の育成のため、英語専門コースを中心に、より高いレベルで英語5領域の運用能力を育成する。 ※ 英語コースにおける当該科目授業アンケートの授業満足度において、3.2以上での安定をめざす。（R4：3.0，R5：3.0，R6：3.6）	
	(2) 校内外での学習習慣の定着をめざす。 ア 放課後学習を実施し、知識・技能の一層の定着を図る。 ・授業においては、課題など自主学习につながるものを各教科で行う。 ※ 1・2年生の自主学習の平均時間を、令和9年度には0.60時間にする。（R6：0.44H） イ 各種検定試験の受験を促進し、資格取得における学習への動機づけを図るとともに将来の進路に生かす。 ※ 漢字・数学・英語・情報の資格検定の申込者数を増加させて、令和9年度までに100人以上にする。（R5：71人，R6：79人）	
	(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現のための取り組みを推進する。 ア 自分の希望する進路実現に取り組めるよう、将来に向けてのキャリア展望を育成する。 ※ 自己診断（生徒）の進路指導に関する項目において、令和9年度まで90%以上の肯定の維持。（R4：87%，R5：89%，R6：94%） ※ 自己診断（3年生）「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」、令和9年度まで90%以上の肯定の維持。（R6：95%） イ 最新の情報収集に基づく進路種別の生徒・保護者向け説明会を実施する。	
2	力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	
	(1) 生徒理解に基づく指導の促進と安全・安心な学校生活を支援する体制の確立、規律ある学習環境の確保を行う。 ア カウンセリングマインドのある生徒指導により、生徒の自律性・自己肯定感を高め、規律ある学習環境の確保を図る。 ※ 自己診断（生徒）「学校のルールを守ろうとしている」、令和9年度まで95%程度を維持。（R4：95%，R5：94%，R6：96%） ※ 年間遅刻者数を令和9年度に800人以下をめざす。（R4：1020人，R5：895人，R6：1061人） イ 悩みや不安のある生徒が安心して学校生活が送れるよう、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携して教育相談支援体制を充実する。 ※ 自己診断（生徒）の教育相談・いじめ対応に関する項目において、令和9年度まで肯定90%以上を維持する。（R4：84%，R5：86%，R6：90%）	
	(2) 伝統ある学校行事（生徒会活動）や活発な部活動により主体性・協調性を育成する。 ア 生徒主体で企画・運営する学校行事を実施する。 イ 部活動運営の主体性を育むためCM（キャプテン・マネージャー）会議の充実を図る。 ※ 自己診断（生徒）の「行事」「部活動」に関して、令和9年度まで肯定80%以上を維持。（R4：76%，R5：76%，R6：88%） ※ 1年生の部活動加入率を令和9年度に60%にする。（R4：49%，R5：50%，R6：53%）	
	(3) コミュニケーション能力の向上を図り、他者を尊重する心を育成する。 ア 「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。 ※ 自己診断（生徒）「誰に対してもあいさつするようにしている」、令和9年度まで肯定90%以上を維持。（R4：89%，R5：91%，R6：94%） イ 人権を尊重する教育を推進する。 ウ 短期海外研修（希望者）及び海外の学校とのオンライン交流を実施し、国際感覚を育成する。	
3	学校力、教員力の向上	
	(1) 津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進 ア 学校説明会、中学校訪問等により生徒の活躍する姿を周知し、「津田高の魅力」をアピールする。 イ 地域コミュニティの行事や近隣企業のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」をアピールする。 ウ 学校WebページやSNS等を活用して、生徒の活躍する姿が鮮明に伝わるように情報発信する。 ※ 学校Webのブログ「枚方津田ニュース」の更新を令和9年度には180回以上にするとともに、公式SNS・部活動SNSを継続する。 ブログ「枚方津田ニュース」（R4：9回，R5：98回，R6：166回）	
	(2) 働き方改革の取り組み ア 校務におけるデジタル化の推進、業務の見直し・効率化 ※ 教職員ストレスチェックの総合健康リスクに関して、令和9年度まで100未満を維持。（R4：119，R5：123，R6：91）	
	(3) 創立40周年に向けた取り組み ア 令和7年度に創立40周年を迎えるにあたり、記念誌・記念事業の取り組みを完了する。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学校生活】 ・生徒：「誰に対してもあいさつする」が肯定94%で、目標としていた90%以上の維持が高水準で実現できた。幅広い来校者からも、生徒の挨拶の評判がとても良い。さまざまな機会を通じてあいさつの重要性を伝えているとともに、伝統として実っていると考えている。 ・「行事が楽しい」は、生徒：肯定92%で前年度より3ポイント上昇した。例年どおりを踏襲するのではなく、より良い内容に工夫しながら取り組んだ成果と感じている。 ・「学校生活や生徒指導についての納得・共感」は、生徒：肯定76%、保護者：肯定76%であった。前年度よりも約5ポイント上昇したが、一層の向上をめざして納得感を高める指導を推し進めていきたい。 【学習指導】 ・生徒：「授業はわかりやすい」は前年度に顕著に上昇した流れを概ね保ち、肯定84%〔前年度86%〕であった。生徒：「学校は1人1台端末を効果的に活用」は肯定93%〔前年度92%〕と良好な状況を維持しているため、今後とも一人ひとりの進路実現に必要な学力水準を維持するとともに、わかりやすい内容・方法を工夫していきたい。 【進路指導】 ・進路指導は、生徒：肯定90%、保護者：肯定86%、教職員：肯定94%であり、妥当な水準を維持している。特に、3年生：「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」は肯定94%であり、前年度に引き続き高評価となっている。各生徒の希望進路の実現に向けて、きめ細やかな対応を続けた結果と考えている。	第1回（5/22） ・探究活動の取組みに、DXハイスクールの強みを生かして、充実度を高める取り組みを推進していくといいと考える。充実度や満足度を測定できればなお良い。 ・会社でプレゼンをさせると、基礎的な部分もできていないことがある。高校生からこういう指導を受けられることは望ましい。社会人に必要なスキルである。 ・DXにより、デジタル活用教育が思っていた以上に進んでいることがわかった。 ・大阪府立高校の生活支援員は、中学校の支援員よりも悪条件だと感じる。 ・仕事のオンが増えるとオフ（削減）をどう行ってバランスをとるか重要である。 第2回（10/2） ・創立40周年記念誌を印刷配付する代わりにPDF配付はいい方向である。中学校でもPTAだよりを印刷でなくPDF配付にして、予算を大幅に節約している。 ・中学生向けデジタルものづくり教室や、在校生の校外プレゼンテーション出場者にアンケートをとってみたいといいのではないかな。 ・遅刻指導に関して、社会人になってから、度々の遅刻は通用しない。 第3回（2/6） ・国際交流について、オンライン交流を重ねた後、実際に相手校の生徒達が引率教員とともに来校したとのこと、とてもいい取組みになったと感じる。当初の目標設定になくても、○→◎としていいと考える。他の項目でも、94%の成果が出ている部分など、そもそも目標が高い場合に、○→◎としていいのではと考える。 ・働き方改革について、時間数減のために教員の増員をしてもらえるのか。 ・R8年度学校経営計画における「めざす学校像」と「中期的目標」について、承認された。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 生徒の 未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 知識・技能の習得、 「確かな学力」の定着 ア DX ハイスクールによる取組み及び津田高版の探究活動の充実	(1) ア・AI 活用等、授業等で本格的に取り組み、プレゼンテーション力の育成やデジタルに関する力の育成を図る。 ・その延長線上として生徒の協力も得ながら中学生対象「デジタルものづくり教室」を実施する。 ・津田高版の探究活動（総合的な探究）を充実し、上の項目とも連携して進める。	(1) ア・DX ハイスクール指定の継続を実現する。[新規] ・中学生対象「デジタルものづくり教室」を2回以上実施[新規] ・DX または探究活動等による校外プレゼンテーション大会に1人以上出場する。[新規] ・卒業生徒数における大学理系学部進学率11%以上[11.6%]	※学校教育自己診断の項目・肯定率を、生徒は「生:」、保護者は「保:」、教職員は「教:」と表記。 (1) ア・DX ハイスクール指定継続。(○) ・「デジタルものづくり教室」2回。中学生への広報も兼ねる。(○) ・探究活動の校内評価上位2グループ9人が探究 EXPO に出場。(◎) ・大学理系学部進学率11.4%(○)
	イ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業、高い学力伸長を求める生徒対応、多様な状況にある生徒対応、ICTを活用した授業実践	イ・1人1台端末とプロジェクター等のICTの活用を含め、主体的・対話的で深い学びを実現する授業、教職員間の授業見学や研修等で教育力の向上を図る。 ・高い学力伸長を求める生徒や多様な状況にある生徒への対応、7 限め授業の実施、講習・補習を含め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた取組みを実践する。	イ・自己診断(教職員)「主体的・対話的な学びのある授業やICT活用した授業実践」の肯定90%[90%] ・教員間授業見学週間を設定し、研鑽の機会とする。2回[2回] ・自己診断(生徒)「授業のわかりやすさ」の肯定88% [86%]	イ・「教: 主体的・対話的や ICT 活用授業実践」の肯定100%(◎) ・6月と11月に授業見学週間を実施。これまでと異なり11月には6人の教科代表授業者を一斉見学＋研究協議の実施ができて、より効果的な機会となった。(◎) ・「生: 授業のわかりやすさ」84%、次年度は進路実現に必要な学力水準を維持しながら、わかりやすい内容・方法の工夫をしたい。(△)
	ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルで英語5領域の運用能力を育成	ウ・英語専門コース及び英語授業全般において英語5領域の運用能力を育成。	ウ・英語専門コース該当科目の授業アンケート「授業満足度」3.4以上[3.6]	ウ・「生: 該当英語科目の授業満足度」3.24であった。オンライン海外交流や短期研修、海外からの高校訪問などで、生徒は積極的に行動していることから、次年度は実際的な国際交流に着目したい。(△)
	(2) 学習習慣の定着 ア ・放課後学習の実施 ・授業においては自主学習につながるものに取り組ませる イ 検定試験の受験促進	(2) ア・本年度、効果的な運用ができるように、放課後学習をブラッシュアップする。 ・課題など自主学習につながるものを各教科で取り組ませる。 イ・英検、漢検、数検、情検等の受験を促進し、受験対策指導を行う。	(2) ア・1・2年生の自主学習の平均0.5時間[0.44時間] イ・各種検定試験の申込者数90人[79人]	(2) ア・「1・2年生の自主学習」0.52時間。目標は達成したが、一層増やしていくが必要である。(○) イ・「申込者数」136人。積極的な声掛けや模擬テスト、簡易型試験体験などの成果と考えられる。(◎)
	(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現 ア 自分の希望する進路実現のためのキャリア展望の育成	(3) ア・津田高版「キャリアパスポート」を充実し、希望する進路実現に向けた取組みを促進する。	(3) ア・自己診断(生徒)「進路指導」の肯定90%以上の維持[94%] ・自己診断(3年生徒)「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」90%以上の維持[95%]	(3) ア・「生: 進路指導」90%で目標は達成した。学年進行に合わせて肯定値が上昇していて、進路指導が学年段階的にできていた。(○) ・「3年生: 卒業後の進路選択に満足」94%となり、キャリア教育の成果を維持できている。(◎)
	イ 進路種別の生徒・保護者向け説明会の実施	イ・多様な進路種別に対応した、生徒・保護者向け説明会の実施	イ・進路説明会を1年生2回以上、2年生3回以上、3年生8回以上実施[1年3回, 2年4回, 3年10回]	イ・1年8回、2年10回、3年15回(保護者向けは内数で1年2回、2年3回、3年3回)で多様な進路説明会・見学会を実施。(◎)

府立枚方津田高等学校

2 力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	（１）生徒理解に基づく指導と安全・安心な学校生活、規律ある学習環境 ア カウンセリングマインドのある生徒指導、自律性と自己肯定感、規律ある学習環境の確保 イ 教育相談支援体制の充実	（１） ア・納得感のある生徒指導を行い、自律性と自己肯定感を高め、規律ある学習環境の確保を図る。 イ・教育相談・支援・人権に関する事例等も含めた研修を実施し、教職員の理解と力量を高める。	（１） ア・遅刻者数 960 人以下。[1061 人] ・自己診断（生徒）の「規範意識」の肯定 95%以上を維持[96%] イ・教育相談・支援・人権に関する教職員研修を 2 回実施[2 回] ・自己診断（生徒）での「教育相談・いじめ対応」の肯定 90%以上を維持[90%]	（１） ア・遅刻者 1427 人で増加。社会人として通用するように成長させていきたい。(△) ・「生：規範意識」96%、この状況を維持していきたい。(○) イ・教職員研修：4 回実施し、理解・力量を高めることができた。(◎) ・「生：教育相談・いじめ対応」88%で、目標に達しなかった。生徒・教職員とも、教育相談の評価は高いため、次年度はいじめの未然防止の段階から指導を進めたい。(△) （２） ア・「生：行事・部活動」89%、生徒が活躍し、楽しみ、活発に取り組む状況が実現できている。(◎) イ・1 年生の入部率 63%となり、学校説明会での部活動体験から始まり、学年団等からの働きかけの効果が出ている。(◎) ・部活動交流の中学生（広報集約分）87 人。他にも小中学生との部活動交流を積極的に実施。(△) （３） ア・「生：誰に対してもあいさつする」94%で高い結果を維持。(◎) ・「生徒によるあいさつ運動」105 回、毎朝、生徒会や部活動の生徒が門に立ってくれている。(○) イ・今年度は歌・ダンス・手話を融合した鑑賞会として、事前学習を含め、有意義なものとなった。(○) ウ・短期海外研修 1 回。(○) ・韓国的高校とオンライン交流を 2 回実施。成果としてその高校生たちが、引率教員とともに来校しての交流が実現した。(◎) ・海外研修「自分たちの状況や学習環境がいかに恵まれているかを再認識した」など肯定 98% (◎)
	（２）学校行事や部活動による主体性・協調性育成 ア 生徒主体で企画・運営する学校行事 イ CM 会議の充実	（２） ア・生徒が主体となるように学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己肯定感を育む。 イ・CM 会議での情報共有とともに、生徒・教職員で連携しながら、1 年生の入部率の上昇を図る。 ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。	（２） ア・自己診断（生徒）の「行事」「部活動」に関する肯定 85%以上を維持[88%] イ・1 年生の入部率を前年度より上昇。[53%] ・部活動交流に参加する中学生 120 人 [広報集約分 110 人]	（２） ア・「生：行事・部活動」89%、生徒が活躍し、楽しみ、活発に取り組む状況が実現できている。(◎) イ・1 年生の入部率 63%となり、学校説明会での部活動体験から始まり、学年団等からの働きかけの効果が出ている。(◎) ・部活動交流の中学生（広報集約分）87 人。他にも小中学生との部活動交流を積極的に実施。(△) （３） ア・「生：誰に対してもあいさつする」94%で高い結果を維持。(◎) ・「生徒によるあいさつ運動」105 回、毎朝、生徒会や部活動の生徒が門に立ってくれている。(○) イ・今年度は歌・ダンス・手話を融合した鑑賞会として、事前学習を含め、有意義なものとなった。(○) ウ・短期海外研修 1 回。(○) ・韓国的高校とオンライン交流を 2 回実施。成果としてその高校生たちが、引率教員とともに来校しての交流が実現した。(◎) ・海外研修「自分たちの状況や学習環境がいかに恵まれているかを再認識した」など肯定 98% (◎)
	（３）コミュニケーション能力の向上と他者を尊重する心の育成 ア あいさつ運動の促進	（３） ア・「誰にでもあいさつできる津田高」のため、あいさつの重要性を説くとともに、生徒による日々のあいさつ運動を実施。 イ・人権文化講演会を芸術鑑賞会と連携して実施する。	（３） ア・自己診断（生徒）の「誰に対してもあいさつするようにしている」90%以上を維持[94%] ・生徒による朝のあいさつ運動を年間 100 回以上[105 回] イ・今年度は人権文化講演会を芸術鑑賞会と重ねて実施する。	（３） ア・「生：誰に対してもあいさつする」94%で高い結果を維持。(◎) ・「生徒によるあいさつ運動」105 回、毎朝、生徒会や部活動の生徒が門に立ってくれている。(○) イ・今年度は歌・ダンス・手話を融合した鑑賞会として、事前学習を含め、有意義なものとなった。(○) ウ・短期海外研修 1 回。(○) ・韓国的高校とオンライン交流を 2 回実施。成果としてその高校生たちが、引率教員とともに来校しての交流が実現した。(◎) ・海外研修「自分たちの状況や学習環境がいかに恵まれているかを再認識した」など肯定 98% (◎)
	イ 人権を尊重する教育	イ・人権文化講演会を芸術鑑賞会と連携して実施する。	イ・今年度は人権文化講演会を芸術鑑賞会と重ねて実施する。	イ・今年度は歌・ダンス・手話を融合した鑑賞会として、事前学習を含め、有意義なものとなった。(○)
	ウ 短期海外研修及び国際交流活動	ウ・短期海外研修及び海外の学校とオンライン交流を実施する。	ウ・短期海外研修の実施 1 回[1 回] ・オンライン交流 2 回[2 回] ・これらの活動のうち、集約が間に合うものについて、肯定 95%以上[98%]	ウ・短期海外研修 1 回。(○) ・韓国的高校とオンライン交流を 2 回実施。成果としてその高校生たちが、引率教員とともに来校しての交流が実現した。(◎) ・海外研修「自分たちの状況や学習環境がいかに恵まれているかを再認識した」など肯定 98% (◎)
3 学校力・教員力の向上	（１）津田高の魅力発信と地域連携 ア 学校説明会・中学校訪問等による魅力発信 イ 地域イベント等への参加 ウ 学校 Web ページや SNS を活用した情報発信	（１） ア・学校説明会、中学校訪問等により生徒の活躍を周知し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」をアピールする。 ・中学生とその保護者に授業を公開する。 イ・地域の行事や近隣の企業等のイベントへの参加、異なる校種間との生徒交流を実施する。 ウ・学校 Web の充実に取り組む。 ・Web、ブログ、SNS 等による情報発信。	（１） ア・中学校訪問 100 回以上 [107 回] ・中学生とその保護者に授業公開 1 回 [1 回] ・中学生向け広報紙の発行 6 回以上 [9 回] イ・地域の行事等への参加 4 回以上[4 回] ウ・学校 Web のブログ「枚方津田ニュース」更新 170 回[166 回]	（１） ア・中学校訪問 98 回。これ以外に塾対象も開始した。(○) ・中学生向け授業公開 1 回。(○) ・広報誌発行 9 回 (○) イ・地域の行事等へ部活動出演 5 回。他にも支援学校交流 2 回、近隣小中学生を招いた部活動交流。(◎) ウ・ブログ「枚方津田ニュース」187 回 (◎) （２） ア・教職員の総合健康リスクは 90 となり前年度より向上した。(◎) ・「保：情報提供」85%で少し到達しなかった。保護者へ文書配付のデジタル化は進んだ。加えて、今年度後半から公式メールでブログの月間まとめを送付した。(○) （３） ア・記念誌は PDF 発行とし、各種節約できた予算を回してエアコン、プロジェクター整備を実現し教育活動に活用できている。(○)
	（２）働き方改革 ア 校務におけるデジタル化の推進、業務の見直し・効率化	（２） ア・校務におけるデジタル化を推進するとともに、業務の見直し・効率化を図る。 ・保護者への文書配付のデジタル化を継続する。	（２） ア・教職員ストレスチェックの総合健康リスクの 100 未満を維持[91] ・自己診断（保護者）「情報提供」の肯定 86%[84%]	（２） ア・教職員の総合健康リスクは 90 となり前年度より向上した。(◎) ・「保：情報提供」85%で少し到達しなかった。保護者へ文書配付のデジタル化は進んだ。加えて、今年度後半から公式メールでブログの月間まとめを送付した。(○) （３） ア・記念誌は PDF 発行とし、各種節約できた予算を回してエアコン、プロジェクター整備を実現し教育活動に活用できている。(○)
	（３）創立 40 周年 ア 創立 40 周年の記念誌・記念事業	（３） ア・創立 40 周年における記念誌・記念事業の取組みを完了する。	（３） ア・記念式典は行わず、記念誌の発行、記念事業の取組みを完了する。	（３） ア・記念誌は PDF 発行とし、各種節約できた予算を回してエアコン、プロジェクター整備を実現し教育活動に活用できている。(○)